

北見工業大学 台湾語学研修報告書

〈目次〉

【学生】

佐山 将太郎 (SAYAMA SHOTARO)	1
下野 雄生 (SHIMONO YUSEI)	2
安念 宜昭 (ANNEN TAKAAKI)	4
中田 康介 (NAKATA KOSUKE)	5
多田 直人 (TADA NAOTO)	6

【引率教員】

鈴木 衛 (SUZUKI MAMORU)	7
--------------------------------	---

【付録】

1 研修ポスター	9
2 研修募集資料	10
3 最終オリエンテーション用資料	12
4 研修日程表	14
5 実際の諸経費一覧	17
6 研修写真	18

【研修大学】

中華民国（台湾）中国医薬大学北港キャンパス（雲林県）

【期 間】

2014年2月22日（土）～3月22日（土）

一か月の台湾研修を終えて

機械・社会環境系1年 佐山 将太郎

あっという間の一か月でした。毎日、目の前のことをこなすのに精一杯の一か月だったように思えます。たくさんの貴重な経験ができました。なんとといっても、台湾の学生と毎日話せたことが自分のなかでは、一番良い経験だったと思います。もちろん日本語は通じず、英語、中国語での会話がほとんどだったので、最初は会話するのもにも苦労しました。でも、とにかくたくさん話そうと決めて、いろいろな人と話していったら、仲良くなることができました。台湾の学生はみんな英語を話すのが上手で、日常会話くらいなら、ほとんど問題なく英語で話せるようでした。話を聞くと、小学生のときから英語を習っていたようで、大学の教科書も英語で書かれたものが多く、日本とは、英語教育のレベルの違いを感じました。英語で書かれた微分積分や化学の教科書は、ほんとうに難しそうでした。

台湾の学生とはいろいろなことをしました。大学では、一緒に学食でご飯を食べながら話したり、夜は卓球やバレーをしていました。毎日卓球をしたせいで、けっこう上達した気がします。また、放課後はよくご飯に連れて行ってもらいました。台湾の料理は中華料理が多かったです。餃子や小籠包は本場の味でおいしかったです。全体的な台湾料理の傾向としては、野菜が少なく、肉料理が多いようにも感じました。また果物が日本よりもたくさんあるようで、日本ではあまり見ない果物もいろいろと食べることができました。大学以外の場所にもあちこち行きました。3日間のホームステイしたときは、台湾で二番目に大きい都市である台中に連れて行ってもらいました。ホームステイ先の家族には、なかなか言葉が伝わらず大変なときもありましたが、頑張って話しかけました。特にホームステイ先のお父さん、お母さんは、とても親切にしてくださって、常にお腹がいっぱいになるくらい食べ物をくれました。

一か月終わってみて、思い返すと、人間関係に恵まれていたなと感じます。北見工業大学からは、5人一緒に行きました。朝起こしてもらうなど、みんなで助け合ったおかげで一か月乗り切れました。睡眠時間が足りないくらいハードな生活を送っていたのに、寝坊して授業に遅れることがなかったのは、今思い返すと、なかなかすごかったと思います。毎日あちこちに行くので、体力的にもきつくて、風邪をひいてしまったときもありました。一か月しかなかったのに、風邪をひいてしまったことは、反省点の一つです。このときは、引率の鈴木先生が大学の病院に連れて行ってくださって、薬をもらえたので何とか乗り切れました。鈴木先生は困ったときはすぐにサポートしてくださったので、安心して一か月過ごすことができました。

日本に帰る日が近づくと、このまま台湾に居たい、日本に帰りたくないと思うようになりました。今回の研修を終えてから、中国語や英語を本気で勉強したいと思えるようになりました。また、中国医薬大学の学生は勤勉だったので、自分も負けていられないと感じました。今度また台湾に行ったときには、中国語や英語でもっと話せるように勉強したいと思います。ぜひ、また台湾に行きたいです！

台湾研修を終えて

機械・社会環境系1年 下野 雄生

まず、はじめに僕らの中国語研修に伴う台湾留学に対してたくさんの助成金ありがとうございました。助成金のおかげで有意義な春休みを過ごせたと思っております。

今回、台湾へ行って日本ではできないようないろいろな体験をさせていただきました。例えば、北港では週2回ある夜市。お祭り大好きな僕からしてみれば、とても魅力を感じた行事となりました。夜市の中でも驚いたことがあります。僕はチャレンジャーなので初めて見たものを食べようと思ったのですが、その中でも特に驚いたのがコオロギの素揚げです。みんなエビみたいだと言っていましたが、僕的にいい意味でまた一味もふた味も違ってとてもおいしかったですよ。あと台湾の伝統的なスイーツの豆花(ドオ ホワア)もとてもおいしかったです。もしこの台湾に行きたい、行くという方がいるなら僕はこの食べ物を勧めます。僕は現在中華料理屋でアルバイトをしており、台湾の料理にも興味を持っていましたが、台湾に行く前と日本に帰国した後では台湾料理に対するイメージというものが変わりました。台湾料理は中華に近いのかなとおもっていましたが全然そんなことはなく、台湾で作られている漢方を中心に作られているものなのだと思います。だから味ももちろんおいしいのですが、いままで味わったことのないような味で、漢方を取り入れているので体にもいいし、台湾の料理がとても気に入りました。でもやはり日本食は恋しくなりますね。

台湾での中国語講座では先生方はみんなユーモアのある方で中国語を教わる傍ら楽しく授業を受けることができました。これを機に中国語に対して興味を持つことができましたし、北見に帰った後でも中国語について勉強しようと思いました。ありがとうございました。でもやはり今回の台湾留学において一番自分に影響を与えたのは、学生との交流です。台湾の中国医薬大学に来た時は台湾の学生と仲良くできるか不安でしたが、時間がたつにつれ僕らの周りにはたくさんの学生がいることを実感しました。まず中国医薬大学に来て最初の週にあったホームステイでは、僕のチューターであった江君とその家族にお世話になりました。江君や家族の方々はとても親切に接してくれて、遠慮することなく、気軽に台南を楽しめました。本当にホームステイの3日間は楽しかったです。この企画のおかげで台南についてたくさん知ることができ、台湾をもっと好きになることができました。そのあとはいろんなツアーにいきましたが、大葉大学(彰化県)の学生との交流では、日本語の達者な学生との交流があって、本当に上手なので中国語を習っているという身からとても勇気づけられました。

そして2泊3日の南投ツアーでは他の大学からきた生徒もいて、最初うまく仲良くなれるのか、みんなが楽しめるのか、不安でしたが、そんな心配する必要もなく、初日から仲良くなることができて良かったです。やはり積極的に話しかけることは大事なのだと思いました。南投ツアーは僕の大切な思い出となりました。

中国医薬大の生徒とは卓球やバレー、カラオケ、一緒に食べにいたり、ときには一緒に

に研修に行ってくれたりずっと一緒にいたので、学校を離れる時は本当につらかったです。でもおかげで、僕は成長できました。そう実感しています。またこの北見工業大学メンバーで台湾に行きたいと考えています。この報告書を読んでいる人も台湾に限らず留学は自分の成長に対し大きな影響を与えると思うので、お勧めします。

今回僕らの台湾留学の引率に来てくれた鈴木先生、ありがとうございました、先生のおかげで僕らはスムーズに台湾を楽しむことができましたと思っています。多田さん、佐山君、安念君、中田君もありがとうございました。このメンバーだからこそ、このメンバーなりの物語があったので、大変でしたけど、いい思い出となりました。謝謝台湾！再見台湾！

出逢いとは必然

情報電気エレクトロニクス系1年 安念 宜昭

はじめに、今回の語学研修を通して出逢いお世話になった方々、計画や準備・助成していただきました方々にお礼申し上げます。ありがとうございました。

今回の語学研修を通して私は多くの事を得て、多くの事に気付くことができました。異なる文化や食習慣・言語はもちろんのこと、人との出逢いについて学ぶことのできた1ヶ月間だったと思います。「出逢いとは必然」、この言葉は私が常日頃から忘れてはならない言葉の1つとして掲げているものです。人と人との出逢いは偶然ではない必然だと。その必然こそが奇跡だと。私はこの語学研修を通して多くの奇跡と遭遇しました。昨年10月引率の先生との出逢い、共に旅をした仲間との出逢い、毎週台湾語を教えてくれた留学生との出逢い、そしていざ臺灣に着いてからの中国医薬大学の学生・教職員との出逢い、第一薬科大学、日本薬科大学、横浜薬科大学の学生・引率の先生との出逢い、大葉大学・彰化師範大学・東海大学の学生との出逢い。そのどれもが必然の出逢いであり奇跡でした。出逢った瞬間はいつも不安が先行してしまいます。「うまくやっていけるだろうか」と。しかし、時間は短いものです。立ち止まっている暇などありません。私は積極的に声をかけようと決め、勇気を出して一歩踏み出すことができました。すると二歩目からは自然と踏み出すことができるようになりました。言語の壁は最初に感じているものよりも極めて低かったです。低いどころか、ないと言っても過言ではないほどでした。なぜなら彼らが優しさで満ちていたからです。その優しさに私はみるみるうちに引き込まれて行きました。そんな彼らに出逢って本当に私は幸せ者だなと感じました。誰に伝えればいいのかわからないほどに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

そしてもう1つ個人としてこの語学研修にあたっての目的がありました。それは自分自身の成長です。今年で成人となる自分が今のままではいけないと危機感を感じていました。「大人な人間」とはあまりにも漠然としていてよくわかりませんが、その手がかりをつかめたらいいなと思っていました。以前アメリカ合衆国へ行った際に「国が変わり言語が変わり周囲の人が変わるとどことなく自分自身も変わっているように感じる」という経験をしました。今回の臺灣では初めて海外の大学で講義を受け、共同生活を体験しました。そこで私は「甘え」ということを考えるようになりました。今の私が何かに甘えているとか、もっと甘えればいいのか答えらしき答えはまだ出せていませんが、近い未来に何かしらの答えを出せるようになりたいです。それがもしかしたら今の自分に欠けているものなのかもしれません。

最後に今回の研修すべてを通して様々な経験をし、多くの思い出を作ることができました。長い歳月とともに記憶は薄れ色褪せていってしまうかもしれませんが、決して0になることはないと思います。なぜなら私は多くの友人を得ることができたからです。再び彼らに会う日までさらに成長した自分になれるよう今後の生活を全うしていこうと思います。

台湾語学研修で学んだこと

バイオ環境・マテリアル系1年 中田 康介

はじめに、台湾語学研修を企画して下さった皆様、誠にありがとうございます。特に引率して下さった鈴木先生には非常に感謝しております。おかげで有意義な1ヶ月間を過ごすことができました。私の台語学湾研修に行った動機としては、私は海外に1度も行ったことがなかったので1度行って見たかったからです。また、私はドイツ語を履修していたので初めはドイツへ短期留学したかったのですが、欧州方面は比較的に高額で、私の貯金では払えなかったからです。しかし、友達に誘われて台湾は比較的安価で行くことができることを知ったので台湾語学研修に参加しました。

台湾研修のスケジュールとしては、午前中は中国語の勉強をして、午後は台湾内を観光するといった形になっていました。また、夕方から夜にかけては自由行動になりますので、そこで台湾の学生と交流をするのも、その辺りをぶらつくのも個人の自由です。私は台湾の学生と交流するのを主としていました。台湾の学生は基本的に中国語ではなく気を遣って英語で話しかけてくれるので会話はすることができます。しかし、英語に関してもこちらの日本の学生とあちらの台湾の学生の語学力の差を感じました。台湾の学生は英語の発音がとても良いです。そのため、聞き取れないこともしばしばありました。しかし、基本的なコミュニケーションは取れたので安心できました。また、中には日本語を話せる学生もいたことに驚きでした。そういった学生ともコミュニケーションを取れるというのも楽しいものでした。日本の文化をよく知っている方々ばかりでした。

台湾の方々には私たち異国人に対しても親切で何より積極的な方々ばかりでした。例えば、食事中に私はお腹いっぱいになったとしても、これでもかというほど食べ物をすすめてきました。その時は、私はいつも申し訳なく断り続けていました。本当に良い方々ばかりでした。そして話は変わりますが、台湾の食べ物にはある特徴がありました。それは、比較的甘くて、その甘さというのがチョコレートのような菓子的な甘さじゃなく、香辛料の甘さといった感じがしました。初めはその味に戸惑いを感じましたが、食べている内に慣れていきました。特に印象的な食べ物は土芒果です。これは台湾のマンゴーで非常に美味しいものでした。台湾の食べ物は北や南によって味が変わるといった印象がありました。台北で食べた物は比較的甘くなく、しょっぱい感じがしましたが、北港は甘い食べ物が多かったです。

台湾は何より交通状況が危険でした。歩道と思わしき場所にもモーターサイクルで乗り上げてきました。何度も冷や冷やしていました。けれどそれも、逆に活気があると思えば楽しいものでした。

最後になりますが、関わって下さった台湾の学生の皆様本当にありがとうございました。おかげで楽しく1カ月間過ごすことができました。また2回目になりますが、台湾語学研修の関係者の皆様本当にありがとうございました。これを機により語学力を高めていきたいと思っています。

台湾・中国医薬大学北港分部における中国語研修について

バイオ環境化学科 2年 多田 直人

約一ヶ月間の語学研修で、日本では絶対に過ごすことのできない春休みを送る事ができ、かけがえのない思い出ができました。また、母国語以外の言語を使いコミュニケーションを取ることで、日本では築くことのできない友情を手に入れることが出来ました。

期末テスト終了の翌日に出発という厳しいスケジュールの中出発の日になり、二年生は一人だけという責任のかかる状況の中、見事に寝坊しました。また、日本を出国する前に免税店での予想外の出費なども今思えばいい思い出です。台北のホテルで一泊しましたが、2月の中旬にもかかわらず、北海道の夏のような気温や匂い、日本では考えられないような自由で危ない交通ルールなど、日本とは全く違う雰囲気興奮気味でした。

次の日の朝台北から大学のある北港へ向かいました。北港は私の地元によく似た畑の多いのどかな街でした。大学の周りには何もなく、放課後の娯楽といえばバレーボールやバスケットボール、卓球といったスポーツしかなく、勉強には最適の環境でした。大学では平日の午前中は中国語の授業を受け、午後は水墨画、ツボや薬膳料理などの中国医学など台湾でしか体験できない授業を受けたり、バスで昔の製糖工場や仏教記念館などへ行ったりして台湾文化を学びました。また研修開始一週間で、ろくに中国語も喋れない状況下でのホームステイもとても楽しかったです。台湾の家庭料理をごちそうになったり、台中の美術館や自然科学博物館、夜市へ行ったりして、二泊三日のホームステイを楽しみました。台湾でも有数の規模の夜市で、日本では食べることのない独特な台湾料理を食べました。臭豆腐や豚の血をゼラチンで固めたものなど、ゲテモノ料理はもう食べたくないですが…。

他にも週末を使って阿里山や台南などの日本とつながりのある観光名所にも行ってきました。最後の三日間は台北で世界第二位の高さの 101 や西門町でショッピング、マッサージを受けてきました。たった一ヶ月間でしたが、多くの友人や先生方に助けられ多くの思い出を作ることが出来ました。

今回の研修の大きな目的の一つは中国語の習得でしたが、午前中の中国語の授業はとても難しく、あまり習得はできませんでした。しかし、台湾の学生の英語力の高さに助けられ英語力の向上ができたと思います。台湾の英語教育は日本と同じく中学生から始まりますが、日本とは勉強の仕方が大きく違うようで、英会話に力を入れているようです。日本の英語教育が世界とは少し違うということに気付かされました。相手が言いたいことはある程度わかりましたが、自分のしたいことや言いたいことが英語にできずに何度も悔しい思いをしました。自分の英語力のなさを痛感する一ヶ月になりました。また、英語がいかに便利な言語かを実感する一ヶ月にもなりました。

引率を終えて

国際交流センター特任講師 鈴木 衛

昨年に引き続き、台湾への中国語語学研修の引率を担当いたしました鈴木でございます。今回の研修も、本学の国際交流協定締結大学であります中国医薬大学（台中・平成20年12月締結）北港キャンパスにて一ヶ月間実施されました。実施に際し、引率教員である私が、2013年8月と12月に先方大学を訪れ、キャンパス長である辜主任及び教務組の楊組長と綿密な打ち合わせを行い、無事に本研修の実施に至りました。今回は、本学より5名の学生に加え、都築学園グループ（福岡市）より第一薬科大学、日本薬科大学、横浜薬科大学の計三校、12名の学生も参加し、総勢17名での研修になりました。今回も、研修中の学費や寮費、研修旅行に至るまで、昨年以上に先方大学が経費負担をしてくれたこともあり、学生にとっては、経済的にも軽負担で済むことができました。多くの支援を賜りましたことにつき、紙面を通じてお礼申し上げます。

さて、今回の研修を振り返ると、「完全燃焼した研修」であったと思います。その最大の理由としては、本学の学生5名が普段の生活から全ての事に対し、積極的に行動し、時間を有効に使っていたことです。特に、台湾人学生と積極的に交流を図り、日に日に友達の輪が広がったことは、彼らにとっても大きな収穫になったようです。その点、今回の学生に関しては、非常にコミュニケーション能力が高く、台湾人学生からも親しまれる性格を有していたと思います。先方大学の教職員からもこの点を称賛され、北見工業大学の良き一面を認識してもらえたと思っております。また、私自身、彼らの日々の様子を見ながら、当時の留学生生活を思い出し、私も彼らのように振る舞っていたのかと感ずることが多々ありました。青春を謳歌することの素晴らしさを改めて気付かされた研修でもありました。

一ヶ月という研修期間は、当初は長く感じていた学生もいたようですが、日々充実した生活を送ることにより、帰国前には時間の足りなさを訴えてくる学生もいました。それだけ、現地の生活にも慣れ、多くの友人に恵まれ、有意義な研修が送れたのだと思います。また、本学の学生は、二年生の多田直人さんを中心にしっかりまとまってくれたこともあり、非常にバランスのとれた良いチームを作ることができました。情報伝達や健康管理も日々しっかり行うことができ、学生にも安心して研修を行えるような環境づくりも整備できたと思っております。普段、本学では業務上、日本人学生と接する機会は少ないのですが、このような機会を通じ、教員と学生ではなく、人対人の信頼関係が構築できたことも、本研修の一つの成果であったと思います。学生の皆さん、本当にありがとう。今後も様々な出合いを大切に、友情を深めていってほしいと願っています。

最後に、本学の学生を受け入れてくださいました中国医薬大学北港キャンパス辜玉茹主任はじめ全ての教職員の方々には、本研修の受入れから研修中のきめ細かい対応まで、親切に対応していただき、感謝申し上げます。非常に気持ちよく研修を送ることができました。また、保護者の皆様におかれましては、学生を本研修に参加させていただきましたことに対し、お礼を申し上げます。さらには、本学が国際化に対応できる人材養成の一環と

して、本研修を支援して下さったことにつき、お礼を申し上げます。また、本学の後援会であります「KITげんき会」様におかれましては、今回も学生に対し参加旅費の助成をしていただきました。ありがとうございました。今後ともご支援のほどよろしく願いいたします。多くの方々に感謝申し上げ、以上、2013年度台湾語学研修の報告とさせていただきます。ありがとうございました。

海外協定大学のキャンパスで学ぶ 平成25年度 春期語学研修(中国語)

参加者募集中

単位認定あり (学部：異文化理解／大学院：国際理解)



研修大学	台湾 中国医薬大学・北港キャンパス http://cmubnp.cmu.edu.tw/	期間	2014年2月22日(土)～3月22日(土)
		費用	約15～20万円 (※諸事情により変動する場合有り)
応募資格	①初めて参加する者 ②勉学意欲が旺盛である者 ③異文化交流を積極的に行える者 ④自己責任の原則を理解し、節度ある行動ができる者	応募期間	7月1日(月)～10月31日(木) 17:00
応募方法	・募集要項をよく読んで、申込書類を提出すること。 ・書類は募集説明会及び国際交流センターにて配布する。 (国際交流センターHPからもダウンロード可。)	募集説明会日程	・一回目：7月25日(木) 12:10～12:50 ・二回目：10月11日(金) 12:10～12:50
		A208教室 (昼食持参可)	

【問合せ・申込先】
北見工業大学国際交流センター
TEL 0157-26-9370 (事務室) /0157-26-9378 (教員室・鈴木)



KITAMI
UNIVERSITY OF TECHNOLOGY

付録2 「研修募集資料」

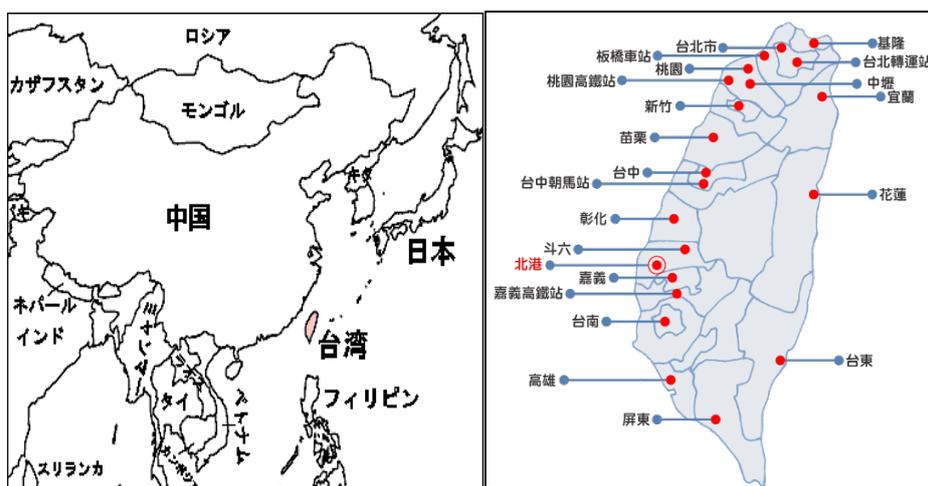
【中国語語学研修配布資料】

2013年度 冬 中国語語学研修 参加者募集！

1. 研修先大学：台湾 中国医薬大学北港キャンパス



2. 研修先の位置



(北港キャンパス→台中本部 バスで1.5H)

3. 語学研修期間：2014年2月22日（土）～3月22日（土）
4. 最少催行人員：5名
5. 参加費用：15万円（航空券＋海外保険＋台北ホテル代）※差額返却あり
6. 参加費用に含まれないもの：①パスポート申請費（未取得者）
②空港までの交通費（北見一女満別）
③台湾国内移動費 ④食費・生活費
⑤自由行動時の費用 ⑥その他（教材費等）

7. 研修先大学負担：①寮費（含 光熱費・インターネット） ②授業料 ③研修旅行費

8. 助成金制度：KITげんき会から3万円の助成金あり
（返却不要・申請人数が多い場合は変更も有り得る）

9. 日程表：別紙参照

10. 特 色：①中国語を習得できる。
②台湾人学生と一緒に英語・体育・書道などの授業も受講できる。
③学生間交流ができる。
④台湾の文化や風習を知ることができる。
⑤日本を見つめ直し、相手に伝えることができる。
⑥チューターがつくことにより、安心して生活できる。
⑦課外活動（二胡・太鼓・ギター・太極拳）に参加することもできる。
⑧学内の施設（図書館・カラオケルーム・ジム・スポーツルーム）を利用することができる。
⑨格安で一ヶ月プチ留学を体験できる。
⑩病院が隣接しているため、万一の対応が即座にできる。

11. 募集期間：2013年7月1日（月）～10月31日（木）

12. 研修費用支払い期限：申請時に支払い（12万円）

13. 事前研修：11月から週一回事前研修（簡単な会話）を実施予定

14. 問合せ先：国際交流センター 鈴木講師（国際交流センター教員室）

メール：suzuki-m@mail.kitami-it.ac.jp

電話：0157-26-9378

対応時間：月・水・金 16:20～17:50 以外（講義のため）

15. 備考：キャンパス風景



付録3 「最終オリエンテーション用資料」

2014年2月7日

【台湾・語学研修 最終オリエンテーション用資料】

1. 日程表：別紙参照
 2. 持ち物(必要最低限)：①パスポート ②Eチケット ③お金 ④酔い止め(必要な人)

【参考】現地諸経費

	月日	内容	金額
1	2月22日(土)	Taxi 台北松山空港→ホテル	\$250/台
2	2月22日(土)	台北宿泊費(1泊2日)	\$2,200
3	2月23日(日)	新幹線 台北→嘉義	\$1,595(¥5,486)
4	2月25日(火)	課外活動	\$100
5	2月28日(金) ～3月2日(日)	ホームステイ 交通費(往復)	※ホームステイ先により異なる。
6	3月8日(土)	阿里山	\$300
7	3月9日(日)	台南	\$ 50
8	3月16日(日)	入場料	\$700
9	3月17日(月)	課外活動	\$ 50
10	3月18日(火)	課外活動	\$200
11	3月19日(水)～ 22日(土)	台北宿泊費(3泊4日)	\$6,600
12	3月22日(土)	Taxi ホテル→空港	\$250/台
13		食費	\$8,700
		計	\$19,400(×3.44) ¥66,736

※No. 3…日本円にて支払い。 ※その他お小遣い

3. 集合時間：2月22日(土) 9:00(JALカウンター付近)

各自空港到着後、チェックインカウンターにてチェックイン

(パスポート・Eチケット)

空港までのバス 北見 7:40 / 空港 8:22

北見 8:00 / 空港 8:42

4. 預け手荷物：2個まで(23キロ×2)
 5. 注意事項：乗り遅れた場合は、参加不可。払い戻しも不可。
 6. 帰国後の手続き：①センター用 報告書提出(A4 1枚 40×30/1200字)

昨年の報告書：北見工大国際交流センターHPに掲載

② 3万円参加旅費助成へのお礼（別紙参照）

昨年資料

料：<http://www.kitami-it.ac.jp/old/kit/img/soukai25.pdf>

※①②の締切：3月30日（日）

提出先：suzuki-m@mail.kitami-it.ac.jp

③履修登録：4月中に学生支援課にて登録

（語学研修に行った旨伝える）

選択Ⅲ「異文化理解」2単位（2013年度後期にて認定）

※研修先にて、3回以上遅刻・欠席した学生は認定不可。

付録4 「研修日程表」

月日	曜日	日程
2月22日	土	女満別（09：20）／羽田（11：15） 羽田（17：55）／台北松山（21：00） 台北松山→ホテル（22：00）【タクシー移動】
23日	日	台北（12：00）／嘉義（13：24）【新幹線】 中国医薬大学北港キャンパス着（14：00） 入寮・キャンパスツアー（14：00-15：00） 歓迎晩餐会（17：00-20：00）
24日	月	開講式（8：40） 中国語授業（9：00-12：20） 昼休み（12：20-13：30） 中国医学講座①「氣」について（13：30-15：30）
25日	火	中国語授業（8：40-12：20） ホームステイ先の学生との顔合わせ（12：20-13：30） 製糖工場跡地（13：30-17：00）
26日	水	中国語授業（8：40-12：20） 昼休み（12：20-13：30） 水墨画教室①（13：30-15：15） 体育（卓球）（15：15-17：10）
27日	木	中国語授業（8：40-12：20） ホームステイ先へ移動（12：20-）
28日	金	ホームステイ
3月1日	土	ホームステイ
2日	日	ホームステイ 帰北港（午後）
3日	月	中国語授業（8：40-12：20） 佛光山佛陀紀念館（12：20-17：00）
4日	火	中国語授業（8：40-12：20） 中国医薬大学本校訪問・附属病院見学（12：20-16：30） 逢甲夜市（16：30-20：00）
5日	水	中国語授業（8：40-12：20） 昼休み（12：20-13：30） 水墨画教室②（13：30-15：15）
6日	木	中国語授業（8：40-12：00） 昼休み（12：00-13：30）

		紫雲膏・タイガーバーム作り (13:00-15:00)
7日	金	中国語授業 (8:40-12:20) 昼休み (12:20-13:30) 薬膳料理講座 (13:30-15:30)
8日	土	阿里山
9日	日	台南
10日	月	中国語授業 (8:40-12:20) 昼休み (12:20-13:30) 中国医学講座②「ツボ療法」 (13:30-15:30)
11日	火	中国語授業 (8:40-12:20) 昼休み (12:20-13:30) 北港の街並み散策 (13:30-15:30)
12日	水	中国語授業 (8:40-12:20) 大葉大学の学生との交流活動・鹿谷の古い町並み散策 (12:20-19:00)
13日	木	中国語授業 (8:40-12:20) 人形劇 (18:00-20:00)
14日	金	中国語授業 (8:40-11:45) 昼休み (11:45-12:30) 二泊三日の旅 (12:30 出発) 凍頂ウーロン茶講座 (14:00-15:30) たけのこ掘り体験 (15:30-17:00) 鹿谷郷民宿泊 (18:00)
15日	土	民宿発 (8:00) 溪頭自然教育園區 (8:30-13:30) 旧埔里製酒株式會社見学 (紹興酒) (15:30-16:30) 七里山塘民宿泊 (17:00) クラシック演奏会 (20:00-20:45)
16日	日	民宿発 (8:00) 九族文化村 (9:00-13:30) 日月潭 (13:30-16:00) 帰北港 (18:00)
17日	月	中国語授業 (8:40-12:20) 昼休み (12:20-13:30) 粽作り (13:30-15:30)
18日	火	中国語授業 (8:40-12:20)

		昼休み (12 : 20-13 : 30) 交趾陶の街並み散策 (13 : 30-15 : 30)
19日	水	中国語授業 (8 : 40-12 : 20) 修了式 (12 : 20-13 : 00) 退寮 (15 : 00) 北港キャンパス発 (15 : 30) 台北ホテル着 (19 : 00) 夕食・レストラン欣葉 (20 : 00-21 : 30)
20日	木	ホテル発 (9 : 30) 九份・鼎泰豊
21日	金	ホテル発 (9 : 00) 中正紀念堂・パイナップルケーキ店・マッサージ 焼き肉・KTV (カラオケ)
22日	土	【女満別】 ホテル発 (7 : 45) 台北松山 (9 : 45) / 羽田 (13 : 30) 羽田 (17 : 55) / 女満別 (19 : 40) 【中部】 ホテル発 (12 : 00) 台湾桃園 (15 : 45) / 中部 (19 : 20)

付録5 「実際の諸経費一覧」

項 目	金 額	備 考
(1) 航空券 (国内・国際線)	61,270 円 77,660 円	帰国空港 : 中部国際空港 帰着空港 : 女満別空港
(2) 海外保険	19,020 円	ジェイアイ傷害保険 (留学用)
(3) 台北宿泊 (4 泊)	20,973 円	日本円にて支払い
(4) 台湾国内新幹線 (ビジネスクラス)	5,486 円 (1,595 円)	日本円にて支払い
(5) 製糖工場トロッコ列車	342 円 (100 円)	レート : 3.417
(6) 阿里山入山料・列車	513 円 (150 円)	
(7) 台南研修旅行入場料	171 円 (50 円)	
(8) 溪頭自然教育園區	513 円 150 円	
(9) 九族文化村	2,119 円 620 円	
(10) 生活費・お小遣い	40,000~90,000 円	
合 計	150,407~216,797 円	※大学後援会より旅費助成金 3 万円が支給されるため、実際の 研修費用は、以下の通りである。 <u>120,407~176,797 円</u>

※パスポート取得費は含まない。

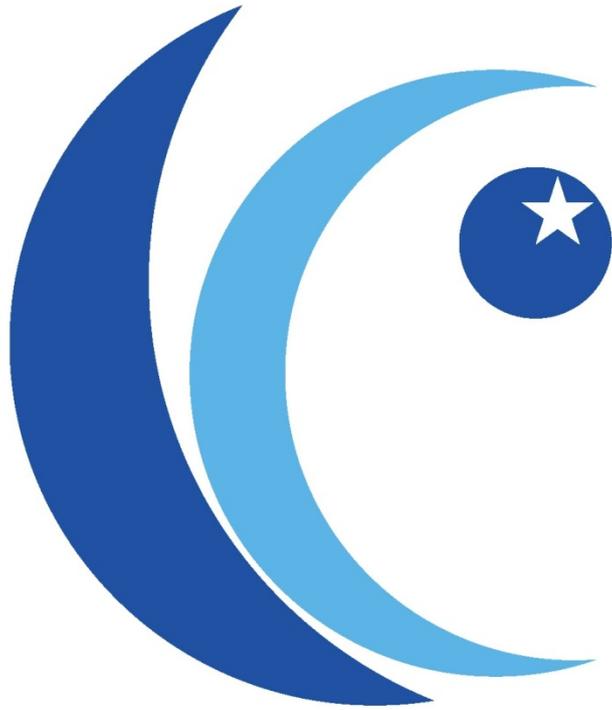
付録6 「研修写真」

【写真1 研修旅行（九族文化村）2014年3月16日（日）】



【写真2 修了式 2014年3月19日（水）】





KITAMI

Institute of Technology

北見工業大学国際交流センター ©2014
〒090-8507 北見市公園町 165 番地
TEL: 0157-26-9370
E-mail: kenkyu05@desk.kitami-it.ac.jp